

もうひとつの働き方を選ぶための情報誌



2022. 2  
FEBRUARY  
No.86



東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合 <http://www.tokyo-workers.jp/>

## 私の仕事術

### どんな生い立ちがあろうと、あなたは最高な存在

マスターピース  
一般社団法人Masterpiece代表 菊池 まりか



#### 「うちにおいでよ」と言える場所を

「家に帰って来たいと思ったことは初めて」。それまでは「家」という場所が安全ではない場所だったけど、家ってほんとはこんなに落ち着く場所だったんだと体験することができた。シェアハウスを利用した10代後半の女の子は語りました。

Masterpieceでは、虐待などの事情で親と離れて暮らす若者たちのシェアハウスを運営しています。児童養護施設を巣立った若者や、施設には入らなかったけれども親との関係が不和である若者が生活しています。私も若者たちと一緒に暮らしています。

私は、2010年から都内の児童養護施設で働き、施設を巣立った若者たちの困難を知り、シェアハウスを始めました。おおよそ18歳で一人立ちをしなくてはなりません。若者たちは離職や心身不調、親からの金銭搾取など、多くの壁にぶつかります。親のバックアップがなく、様々な問題を一人で乗り越えていかなくてはなりません。そういう時に「ちょっとうちにおいでよ」と言えるような場所を作りたいと、シェアハウスを始めました。今では食料配送やユースサロンの開催などにも活動が広がっています。

#### 虐待を受けた若者たちの背景

若者たちの多くは虐待などにより心に傷を負っています。生活の中でその傷を思い出しフラッシュバックを起こしてしまうこともしばしばです。虐待は「魂の殺人」と言われており、子ども時代だけでなく、人生全体に影響を及ぼします。そういう生きづらさは目に見えて分かるものではないため、職場や友人から理解されにくく、人間関係に悩んでしまう若者も少なくありません。また、自分の生い立ちについて心許して話せる存在も

そう多くありません。なので、理解のある人々の温かさに触れて、日々癒されていくという体験が必要です。

#### 大切にしている想い

私は保育園時代にいじめられていきました。それを誰にも言えず、我慢して育ってきました。そして「自分は劣っている存在なのだ」と自己肯定感低く育ってきました。でも、「誰かに気付いてほしかった」「本当は助けてほしかった」と、今振り返ると思います。だから私は、「気付ける大人」「その時出会っていたかった大人」になりたいと思いながら活動しています。Masterpieceとは「最高傑作」という意味です。「どんな生い立ちがあろうと、あなたは最高な存在」というメッセージを伝えていきたいと思っています。

もし、施設等を巣立った若者と出会うことがあったら、温かく友だちのように接してもらえたたらと思います。これを読んでくださった皆様と温かい理解の輪をつくっていきたいと思います。

profile

菊池 まりか

2010年から児童養護施設で勤務。その後、児童相談所の非常勤職員として働く傍ら、Masterpieceを立ち上げた。千葉県・埼玉県で4箇所のシェアハウスを運営し自身も住込む。一般社団法人子どもの声からはじめようの理事としてアドボカシーへの取り組みも行っている。



児童養護施設の若者たちと作った冊子 (HPから購入可)

団体ホームページ  
[https://peraichi.com/landing\\_pages/view/masterpiecejp2017/](https://peraichi.com/landing_pages/view/masterpiecejp2017/)

NPO法人 北海道子育て支援ワーカーズ

## 連帯して地域のニーズを行政に提案するしくみ

北海道の子育て支援ワーカーズは地域で活動していた子育てワーカーズ・コレクティブ団体がユニオンを組み、NPO法人を新たに設立。地域で活動するワーカーズ・コレクティブの支援と、行政を始めとする様々な機関や人々と連携し、「子育てに優しい社会づくり」を推進してきました。  
地域代表理事の豊田直美さんに取り組みについて、お話を伺いました。



### 4つのワーカーズで NPO 法人格をとる

札幌市に生活クラブ生協の組合員の子どもたちを預かる4つの託児ワーカーズ・コレクティブがありました。組合員活動の託児だけでなく、子育てをする家族も含めた支援を行おうと、出張保育やひろば活動に活動を広げていきました。

そのような活動の中で、子育てに悩み、困りごとを抱えている親の多いことに気づきました。核家族化がすすみ、地域でのつながりが希薄な中で、子育ての社会的な支援が必要になっていました。当時、ワーカーズ・コレクティブの認知度はまだ低く、地域の情報や子育て支援のノウハウも持っている団体として、行政に認めもらうことはできませんでした。

行政からの委託や信頼を得る為に、4つの団体が

一つになり、2002年「NPO 法人 北海道子育て支援ワーカーズ」(以下、NPO 北海道子育て支援ワーカーズ)を立ち上げました。現在は札幌市を中心に11のワーカーズ・コレクティブで構成する法人となっています。表参照

### 中間支援組織と11の地域ワーカーズの連携

11のワーカーズは、各地域で親子で参加できるひろば事業や出張保育などの事業を独立採算制で行っています。NPO 北海道子育て支援ワーカーズは、その中間支援組織として機能しており、事務局は専従理事と職員5名で構成しています。

現在、NPO 北海道子育て支援ワーカーズは、江別市・千歳市・北広島市・札幌市の「緊急サポート事業」と小樽市の「ファミリーサポート事業」を受託しています。緊急サポート事業は、会員登録している人の子どもの急な発病で保育園等に預けられない時の病児・病後児の預かり、急な残業などの緊急時の預かり、急な出張などによる宿泊の預かりなどを、地域のワーカーズメンバーなどが行います。このような公的な受託事業は、NPO 北海道子育て支援ワーカーズと、

NPO 北海道子育て支援ワーカーズ	
ぶちとまと (札幌市手稲区)	べりいべりい (札幌市豊平区)
プレーのいえ (札幌市北区)	ほっとまむ (北広島市)
ぐるんぱ (札幌市南区)	びすけっと (小樽市)
ぽけっとママ (札幌市豊平区)	ともに (札幌市白石区)
きらきら (江別市)	ほっぺ (札幌市厚別区)
みるきい (札幌市白石区)	



南区(上)  
石狩市(右)



コロナ禍でも親子の集える場所が提案しようと知恵を絞り、家の中でも楽しめる「ちいさなおもちゃフォーラム」を開催

につながっています。また、2011年からはワーカーズメンバー、行政、民生児童委員で、子育て支援に関わる人たちのネットワークを深め支援者同士がつながる「桜草ネットワーク集会」を開催し、意見交換などを行いました。NPO 北海道子育て支援ワーカーズは、中間支援組織として、受託事業の窓口と個別のワーカーズでは取り組めないプロジェクトの機能を発揮しています。

### さらに広がりを求めて

構成団体のメンバーになるには、子育て経験があり、研修30時間を受けすることで、保育資格等は必要ありません。最近は仕事をしながら関わる方も多く、運営していくための次の担い手が不足しているのが実情です。また、労働対価が低いことや社会保障がないことも、世代交代の壁となっています。「子育て支援とは、親を支える・遊びを伝える・子育てを学ぶ、ということ。永遠に必要なもの。保育や介護は、もっと、社会的価値が上がっていく仕事だと思います」と、豊田直美さん。

子育ての地域ニーズに寄り添うワーカーズ・コレクティブの活動から見えてきた課題を社会に発信し、公的支援につなげてきた連合組織の活動は先駆的な取組みとして評価されています。

(東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合理事 風間成子)

実態を作ってきた地域のワーカーズの事業連携で、地域や行政の信頼を得ることになりました。ワーカーズメンバーの仕事を確保するとともに、事業収入の大きな柱になっています。地域ワーカーズの半数以上が法人格を持たない事業体ですが、NPO 北海道子育て支援ワーカーズとしてまとまることで、事業に参画することができ、自治体を超えて、ワーカーズメンバーが直接顔の見える関係ができます。

長年地道に行ってきた、親子が安心して集える「ひろば事業」や、「おもちゃフォーラム事業」が認められ、「札幌市地域子育て支援事業」として地域のワーカーズのひろば事業が助成を受けています。助成事業になったことで、地域の人に広く知られるようになり、利用者も増えています。

2015年、北海道大学構内保育所の公募を「NPO 子育て支援ワーカーズとともに」が受託しました。これも「NPO 北海道子育て支援ワーカーズ」の構成団体としての活動が評価され受託に繋がったとの事でした。

NPO 北海道子育て支援ワーカーズは、組織強化のために6つのプロジェクト活動に取り組んでいます。ひろばのよりよい運営や実践状況を共有する「ひろば」、おもちゃの遊び方を伝える「おもちゃフォーラム」、子育ち・子育てに興味が深まる講演会や上映会「講座」、絵本や子育て関連の図書を充実させた「とんとん図書」「会員研修」「広報」。これらは各団体メンバーのスキルアップや子育て人材の底辺を広げること



コロナ禍で楽しむ親子遊びを学ぶ内部研修



桜草ネットワーク集会

# Zoomでつながる 東日本大震災被災地との交流

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合は、東日本大震災の翌年、2012年から「現場に立って考えよう」を合い言葉に、被災地訪問を毎年おこなってきました。10年目となる今年は、昨年に引き続きコロナ禍で訪問が難しいため、オンラインで5回開催です。

第1回 2021年11月27日(土)

## 生産者との連携

高橋英雄さん 宮城県東松島市(元石巻市)・  
高橋徳治商店社長・生活クラブ  
生産者



●高橋徳治商店の製品をつかったレシピ／野菜工場でつくっているものの利用方法／規格外品利用の可能性などについて

第2回 2021年12月4日(土)

## 放射能汚染と原発ゼロ運動、食の取り組み

大河原伸さん 福島県三春町・「野菜とパンの店えすべり」・  
有機農業と反原発運動

有馬克子さん 福島県須賀川市・「銀河のほとり」(心と体と  
地球のための穀物菜食レストラン)

●福島の現状や福島第1原発での課題を共有する。原発をゼロにする取組みや有機農業、身体に優しいメニュー、レストラン事業の課題、連携できることについて意見交換

第3回 2022年1月15日(土)

## 子育て応援・子どもの居場所づくり

田中雅子さん 宮城県石巻市・認定NPO法人  
こどもむげん感ばにー・子ども  
の遊び場づくり



●子どもの居場所や公園づくりについて実践をお聞きし、コロナ禍での課題、活動の維持運営について意見交換

第4回 2022年3月5日(土) 10時～12時

## 地域での事業連携をすすめる

八木純子さん 宮城県女川町・一般社団法人コミュニティス  
ペースうみねこ

木村直隆さん 宮城県石巻市・一般社団法人石巻グリーフサ  
ポート・就労支援事業所B型としてカフェ「バー  
ラー山とたんぽ」経営

●八木さんが木村さんの事業所に鍋敷きの木片磨きを依頼した経緯などをお聞きし、製品開発と販売、障がい者との働く場づくりなどの地域での連携について意見交換

第5回 2022年3月27日(日) 14時～16時

## 地域活性化の取り組み

阿部憲子さん 宮城県南三陸町・ホテル観洋女将・毎回の宿  
泊先・語り部活動

●震災後、人口減少に歯止めをかけることや人材育成に尽力されたこと、またコロナ禍における営業活動や同業種連携についてお聞きする。東村山地域協議会の活動を紹介し、地域活性化について意見交換

第4回、第5回参加希望の方は、東京ワーカーズ事務  
局までご連絡ください。

ワーカーズ・コレクティブを広げる報告集会

## 地域に広げよう協同労働の輪

# みんなで運営する事業所として 「労働者協同組合法」を学ぶ

2020年12月に「労働者協同組合法」が成立し、今年10月に施行されます。「労働者組合法」の目指すもの、背景にあるもの、なによりワーカーズ・コレクティブとして実践してきた「働き方」の価値を改めて見なおし、地域にワーカーズ・コレクティブ運動を広げる機会にしたいと思います。

3月19日(土) 14:00～16:30  
オンライン企画

## 「ワーカーズ・コレクティブと協同労働への期待」

コメントーター：田中夏子さん

協同組合研究者  
長野県高齢者協同組合理事長  
佐久市農園Vento e Terra(風と土)園主

## ワーカーズ・コレクティブ報告

—協同労働の現場から

【福祉】(認定NPO) ACT練馬たすけあいワーカーズふろしき

【福祉】(NPO) たすけあいワーカーズパステル

【食】(NPO) こすもす

【受託】(一社) ワーカーズ・コレクティブ凜

【共にはたらく】(一社) 共に働くワーカーズえんこらしょ

参 加 費：無料

申込方法：東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合ホームページ「申込フォーム」からお申し込みください

申込締切：3月10日(木)

【主催】ワーカーズ・コレクティブを広げる報告集会実行委員会  
ACTたすけあいワーカーズ・コレクティブ連合

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合

【協賛】生活クラブ生活協同組合

NPO法人アビリティクラブたすけあい

NPO法人ACT・人とまちづくり

WNJ(ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン)

【お問合せ】東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合情報誌「せれくと」No.86

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階

TEL: 03-3207-1941 FAX: 03-3207-1945

E-mail office@tokyo-workers.jp

http://www.tokyo-workers.jp/

発行日 2022年2月28日

編 集 ワーカーズ・コレクティブ 企画編集・のもの  
年間購読料 600円(年4回発行)